

## 『カブトムシ』

科学のアルバム<虫編>

岸田功 著 あかね書房



力強いからだ、りっぱなつのは、カブトムシは昔も今も、子どもたちの人気者です。でも、最近のカブトムシは雑木林で見たりつかまえたりするものではなく、デパートなどで買うものになってきてしまっているようです。自然の中でのいきものの息吹は、もう聞かなくなってしまったのでしょうか？

いえいえ、今回西緑地で腐葉土を入れ替えたところ、なんと300匹近くのカブトムシの幼虫が堆肥の下に眠っていました！まるまると大きな幼虫です。西緑地は、地域の方々の努力で、自然豊かな一角になってきているようです。

科学のアルバムの『カブトムシ』を見てみましょう。今回見られた幼虫は、もう既に2回脱皮しているようです。これから盛り盛りと落ち葉を食べて、5月末頃には自分の周りに土壁を作って蛹になることでしょう。雄の蛹の部屋は、雌の蛹部屋よりも、つもの分だけ大きく作るそうです。なるほど！

暑くなってセミがうるさく鳴きはじめるころ、300匹ものカブトムシは一斉に西緑地を飛びまわるのでしょうか？さぞかし壮観なことでしょう。樹液や雌をめぐっての、雄どうしの戦いもあるかもしれませんね。

この夏、ぜひ夜の緑地を訪れて、虫たちのパーティーを見てください。懐中電灯をお忘れなく。